

平成27年度農業青年組織等活動活性化事業

事業主体名 のぞみ会

1 目的

のぞみ会は出水市内の肥育牛経営女性が組織する団体であり、平成15年度より経営改善や肉牛資質向上に向けた様々な取組を継続している。これまで枝肉研修や先進事例研修等をとおして、飼養管理改善を中心に取り組んできたが、平成27年度は、消費者との相互理解促進強化を目的とした調査や研修を実施し、より充実した組織へと成長することを目的とする。



2 実施状況

(1) グループインタビューの実施

H28年2月3日に、グループインタビューによる消費者の牛肉に対する意向調査を行った。

モニターである消費者は出水市内の主婦7名で、普段購入している牛肉や、食べる場面等について、座談会方式で自由意見を述べてもらった。次に「鹿児島黒牛」はじめ「熊本あか牛」等4種の牛肉（肩ロース部分）について、外観評価と食味評価を実施した。外観評価は、「色」「赤身と脂のバランス」等について5段階で評価してもらったところ、赤身割合の多い肉の評価が高かった。食味評価では、湯通しと焼きの2通りの調理法で提供し5段階評価をしてもらったところ、やはり赤身割合が高い牛肉の評価が総じて高かった。

今回の結果からは、地元消費者の嗜好としては脂肪割合の高い牛肉よりも、赤身割合が高い牛肉に票が集まった。脂肪交雑の多い肉の美味しさが地元消費者に未だ伝わっていない様子で、今後はより多くの消費者に出水産牛肉を味わってもらう機会が必要なのではないか、という意見が会員の中から挙げられた。



(2) 畜産農家による6次化事例調査の実施

H28年2月19日に、(一社)農山漁村助成・生活活動支援協会が主催する「次世代の食と農を育む女性たち これからの畜産経営と女性の活躍」にのぞみ会会員3名が参加した。第1部では九州大学准教授による「草で黒毛和牛を肥育する」実証についての講演を聴き、新しいタイプの牛肉について知見を得た。

第2部では6次産業化に取り組む畜産農家女性2名の事例報告と演者たちによるパネルディスカッションが行われた。これまで、畜産農家による6次化取組は比較的難しいと感じていたが、今回の調査を通し、自分達にも取組が可能な事例ととらえることが出来た。



3 今後の課題、取り組み

グループインタビューでは、身近な消費者が求める牛肉の嗜好を知ることができた。これからも消費者の意見を聞く機会を尊重していきたい。

また、6次産業化については今後も興味を持って様々な事例を見聞きし、会員同士での意見交換を活発に行いながら、現実的な展望についても考えていきたい。

加えて、素牛価格を出来るだけ抑えた中で、これまで培った肥育技術を活かし、商品価値の高い牛肉生産を目指していきたい。

